# JKホールディングス株式会社

## HA導入による2重化体制が 劇的なサーバー統合を支える

- 🌳 POINT ●30台のAS/400分散環境から1台のSystem iへ統合
  - ●Bitis HAによる2重化体制がサーバー統合を支援
  - ●各種の独自機能でデータの整合性を完全に維持

#### COMPANY PROFILE

設立:1949年 本社:東京都江東区 資本金:26億円

売上高: 2930億3800万円 (2008年3月期·連結)

従業員数:169名 http://www.jkhd.co.jp/

### 30台のAS/400分散体制を 段階的に完全統合へ

IKホールディングスは、住宅建設 資材の専門商社として業界トップの実 績を誇るジャパン建材を中核に、住宅 関連企業をグループ傘下に展開する純 粋持株会社である。

以前はジャパン建材を東証一部上場 会社とし、その子会社でジャパン建材 グループを構成していたが、グループ 経営を円滑に進める上で、建材卸売事 業もグループの1事業部門として管理 していく必要があると判断し、2006年 10月に現体制へ移行した。

その際、グループ全体のシステム開 発機能を強化するため、ジャパン建材 の情報システム部門を分離し、IKホー ルディングスへ統合した。現在同社の IT課は、ジャパン建材および子会社や 関係会社からなるグループ101社のIT 構築・運用を支援している。

同グループでは1990年頃からAS/ 400上で販売管理および財務会計シス テムを開発し、長く運用を続けてきた が、全国各地の拠点にAS/400を合計 30台設置するという典型的な分散環境 を構築していた。しかし運用管理業務 の負荷が増大の一途を辿ったため、 1990年代中頃からサーバー統合に着手 した。サーバーリプレースのタイミン グに合わせ、段階的に統合を進め、 1990年代後半には、全国で7台体制に までサーバー統合を進めた。そして純 粋持株会社へ移行した2006年10月時点 では、東京・大阪・仙台・福岡の各工 リアを統括する4台のSystem i (9406-830が1台、9406-820が3台)を運用。

そして今年5月にはさらに、1台の System i (9406-550) へ完全統合を果た したのである。この際、バックアップ 機としてもう1台のSystem i (9406 -525) を導入し、HA (ハイ・アベイラ ビリティ) ソリューションである [Bitis HA | (ビーティス) を利用した2重化 体制を構築している。

「以前の30台体制に比べれば運用管理 業務はかなり軽減していますが、それ でも4エリアで4台とは言え、プログラ ムの開発や修正・削除、運用管理、地 域的なカスタマイズなどの作業がサー バー個別に発生します。また販売デー タの集計も各サーバーから集めるな ど、システム部門の業務を圧迫してい ました。今回、1台に完全統合できた ことで、そうした開発・運用両面の負 荷が非常に軽減されたように思いま す と、佐々木洋司課長(財務経理部 IT課、内部統制室IT担当兼務) はその 統合効果を語る。

ただし完全統合したことで、万一 サーバーに障害が発生した場合、グ ループ全社の業務に支障をきたすと いうリスクが高まった。そこで今年5 月のサーバー統合を前に、昨年末か らHAソリューションの検討を開始し たのである。

## サーバー統合に伴い 2重化体制を構築

System i上で運用可能なHAソリュ ーションの中で、同社がBitis HAを選 択した理由について、佐々木氏は次の ように指摘する。

「同期のリアルタイム性や使用するリ



佐々木洋司﹕₤

財務経理部IT課 課長 内部統制室(IT担当) 兼務

ソースの負荷、レスポンスなどを総合的に評価した際のバランスのよさに加えて、他製品と比べたコストパフォーマンスのよさが最終的な決定要因になりました!

本番機である550上では、開発用、 グループ関連会社用、ジャパン建材用 と3つのLPARを設定している。これ に対して、バックアップ機である525 上では、グループ関連会社用のバック アップ区画と、ジャパン建材用のバック アップ区画の2つのLPARを設定し た。System i上で稼働している販売管 理および財務会計システムのほぼすべ てのデータとオブジェクトを同期して いる。

本番機は東京本社に、バックアップ 機は災害発生時を考慮して大阪事務センターに設置した。

「金融や流通・製造など、わずかな時間もシステムを停止できないミッショ

ンクリティカル性の高い業種・業務と 違って、住宅建材の卸し業務は万一シ ステムが停止しても、半日程度は手作 業での業務継続が可能です。ですか ら、Bitis HAという製品自体は30分程 度でバックアップ機に切り替える機能 を備えていますが、当社では、障害の 状況からシステム停止が半日以上に及 ぶと判断される場合にのみバックアッ プ機に切り替えることを方針としてい ます。重要なのは、停止時点までの全 データが正確に保存されることであ り、それを目的に設計しました」(佐々 木氏)

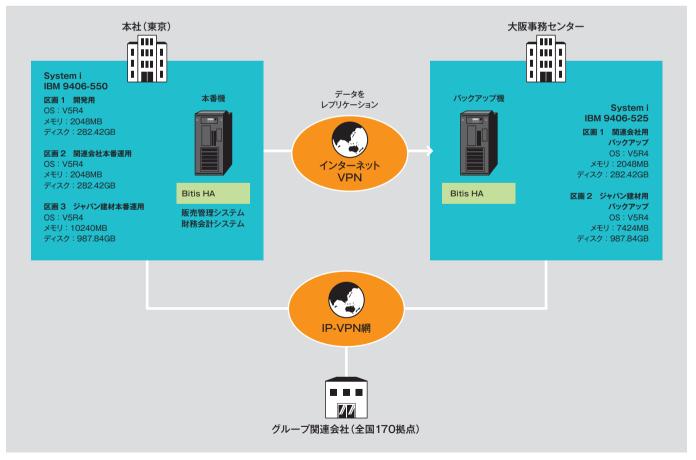
Bitis HAでは、データの整合性を保 ついくつかの独自機能をサポートして いる。

例えば、操作ミスなどで本番/バックアップ機間のファイルの同期が崩れてしまうケースがある。こうした場合、一般には本番機ファイルへのエン

ドユーザーのアクセスを制限し、再同期処理 (物理・論理ファイルの再送)を実施する必要がある。しかしBitis HAでは、Check Sync機能を使用して、エンドユーザーのアクセスを制限することなく、同期回復を自動的に実行できる。

また導入作業が終了してからも、 System iにライブラリーが追加される ケースもよくあるが、その際、Bitis HAの同期対象設定ルールを使用すれ ば、同期対象となるライブラリーが新 たに作成された場合でも、ライブラリ ーの設定追加作業や、手動による同期 開始処理を実施することなく、自動実 行が可能になる。

このように、自動化機能を最大限に 駆使して省力化を図りつつ、データ同 期の整合性を完全に保つHAソリュー ションの運用が、同社のサーバー統合 を舞台裏で支えているようだ。



図表 JKホールディングスのシステム概要